龍ケ崎市の空にゼロ戦の雄姿

ー竜ヶ崎飛行場で組み立て、試験飛行ー

このほど、竜ヶ崎飛行場（半田町）でゼロ戦が試験飛行を行い、集まった市民などの大きな歓声を浴びました。

機体はパプアニューギニアのジャングルで発見された「零式艦上戦闘機 22 型」で、ロシアで８年の歳月をかけて修復され、飛行可能となったもの。世界にわずか４機しかない飛行可能なゼロ戦のうちの１機で、６月初旬に千葉県で開かれたエアレースの特別企画に参加するため、米国から輸送され、同飛行場で組み立てられました。

パイロットはロサンゼルス在住の柳田一昭さん。日本人が操縦するゼロ戦が日本の空を飛ぶのは 72 年ぶりということで、レース決勝前の展示飛行でその雄姿を披露すると、詰めかけた観客から大きな拍手が上がったそうです。

ゼロ戦の所有者はニュージーランド在住の実業家・石塚政秀氏。私財を投げうって「ゼロ戦の里帰り飛行」を実現しました

新井裕太君（城ノ内中）が全国中学レスリングで準優勝

ー中山市長に成績を報告ー

「11 月の大会では優勝します」と力強く語ってくれた新井君

新井裕太君（城ノ内中３年）が、６月 10 日・11 日に水戸市で開催された「第 43 回全国中学生選手権大会」で、見事準優勝に輝きました。

昨年の大会では 85 キロ級で準優勝している新井君ですが、今回は筋力トレーニングなどで体重を 95 キロまで増やし、110 キロ級に出場。強化した筋力を生かし、積極的に前に出るスタイルで危なげなく決勝まで勝ち進みました。決勝戦では体重で上回る相手に苦戦を強いられ、第２ピリオドで重心のバランスの乱れからバックを取られ、惜しくも準優勝に終わりました。

６月 29 日に市長室を訪れ、今大会の成績を中山市長に報告した新井君。「筋力アップのためにタンパク質中心の食生活を心掛けているので、次の大会は優勝できると思います」と、11 月の選抜大会への思いを語ってくれました。

写真展「石田壽（ひさし）と長崎―長崎原爆を撮った裁判官―」

ー歴史民俗資料館で７月 23 日までー

７月１日から、歴史民俗資料館で写真展「石田壽（ひさし）と長崎―長崎原爆を撮った裁判官―」が開催され、多くの市民などが観覧に訪れています。

写真は、長崎地方裁判所長を務め、被爆後は原爆資料の保存や平和祈念像建設に力を尽くした石田壽（ひさし）氏が、昭和 21 年から 23 年にかけて撮影したもの 54 点。

廃墟となった浦上天主堂の中から見つかった「悲しみの聖母像」や倒壊した三菱長崎兵器製作所大橋工場、爆風で倒壊した立木など、被爆直後の惨状を克明に捉えています。

なお、展示会場には、折り鶴の作成スペースを設けています。ここで皆さんに折っていただいた折り鶴は、長崎平和祈念式典に派遣される中学生が、現地に届ける予定です。

石田氏が昭和21年から23年にかけて撮影した写真54点が展示されました

任命式では、中山市長から野口さんに任命証が手渡されました

世界のトップクライマーが龍ケ崎市の子育てを応援

ー野口啓代さんが「子育てたつのこアクション」スペシャルサポーターに就任ー

地域全体で子どもを育むことを目指し、市民・自治組織・企業などに子育て応援活動に携わってもらう活動「子育てたつのこアクション」のスペシャルサポーターに、龍ケ崎市出身のプロフリークライマー・野口啓代さんが就任することとなり、７月４日、市役所でその任命式を行いました。

任命式では、中山市長から野口さんに任命証が手渡されたほか、野口さんが幼少時のエピソードなどを交えながら、当時の写真を披露してくれました。

「子どもたちには、テレビゲームなどよりも、できるだけ外で遊んでほしい」と話す野口さん。「私としては、子どもたちにクライミングなどのスポーツを経験してもらうお手伝いをすることで、子育てに貢献していきたいですね」と、これからの活動への思いを、力強く語ってくれました。

中山市長に受賞の報告をする海老原さん

海老原龍夫さんに環境大臣表彰

ー小学校の環境教育の充実に尽力ー

このほど、市内栄町の海老原龍夫さんが、「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞し、市に受賞の報告に訪れました。

同表彰は、自然環境の保全について国民の認識を深めることを目的に、自然環境の保全に関し、顕著な功績があった方や団体を表彰するもので、環境省が平成 11 年度から毎年度行っています。

海老原さんは、龍ケ崎小学校など市内の小学校で、野鳥の観察の仕方や自然の大切さを教えるなど、子どもたちの自然への関心・理解を深め、地域の学校における環境教育充実に尽力したことが評価され、今回の表彰となりました。ご受賞おめでとうございます。

気象庁で龍ケ崎市が成果報告

ー国の気象予報士派遣事業でー

６月 17 日、気象庁（東京都千代田区）で行われた日本気象予報士会主催のシンポジウムで、昨年６月～９月に市が実施した国のモデル事業の成果を報告しました。

この事業は、災害時に地方自治体が防災気象情報を適切に活用できるよう気象予報士を自治体に派遣するもので、気象予報士が大雨注意報や警報などを素早く読み解いて市に助言することで、的確な避難指示や避難勧告等の発令につなげるのが目的。龍ケ崎市のほか、全国で５自治体が対象となりました。

当日は、市の出水田危機管理監や当市に派遣されていた酒井重典予報士がパネリストになって、当市の事例を紹介しながら、気象の専門家を配置することの優位性について、さまざまな角度で意見を述べました。

当市の事例を紹介しながら、気象予報士配置の優位性を説明する出水田危機管理監